【広告規制に基づく記載事項】

■商品先物取引を行う場合は取引証拠金等の預託が必要になります。最初に預託する額は商品によって異なりますが、最高額は1枚あたり 180,000 円です。また取引証拠金は、相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがありますので注意が必要です。但しその額は、商品や相場の変動によって異なります。

■商品先物取引は、相場の変動によって損失が生ずるおそれがあります。また、実際の取引金額は取引本証拠金の10倍から40倍という著しく大きい金額のため、損失額は預託している取引証拠金の額を上回ることがあります。

■商品先物取引の委託には委託手数料がかかります。その額は商品によって異なり、また対面取引契約とインターネット取引契約でも異なります。対面取引契約での最高額は1枚あたり 18,270 円です。インターネット取引契約での最高額は1枚あたり882円です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

■お取引についての御相談窓口
岡地株式会社　管理本部　顧客サービス室（東京本部）
〒103－0016　東京都中央区日本橋小網町12番5号
電話03-3249-8827

日本商品先物取引協会　相談センター（東京本部）
〒103－0016　東京都中央区日本橋小網町9番4号日商協ビルディング4階
電話03-3664-6243

■当社の企業情報に関するディスクローズ資料は当社本・支店及び日本商品先物取引協会の本部・支部、ホームページで開示されています。

■岡地株式会社は商品取引所法に基づき許可を受けた商品取引員です。
許可番号:　農林水産省指令16総合第1870号
　　平成17・03・16商第1号
加盟協会:　日本商品先物取引協会

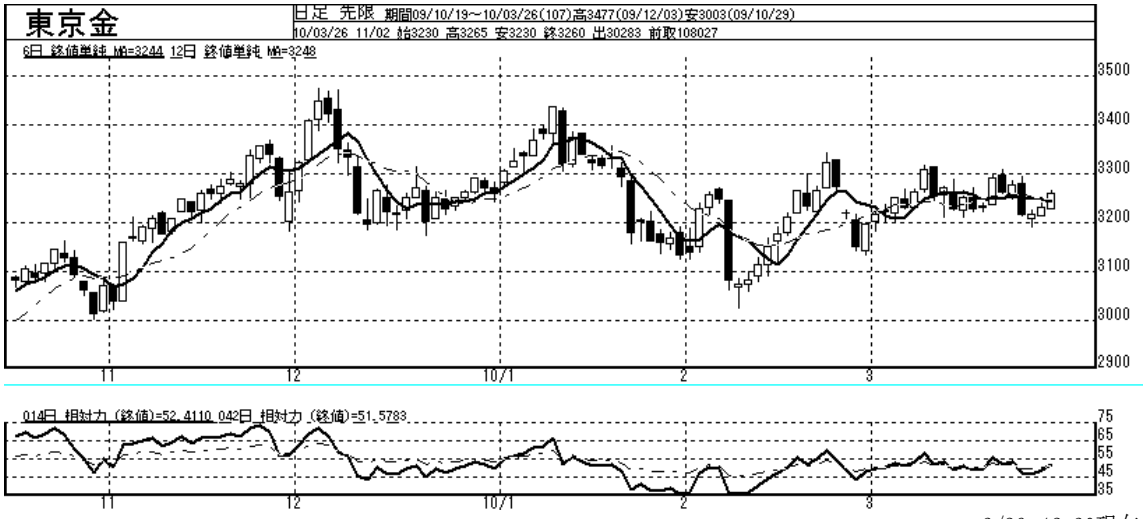
岡地株式会社

WEEKLY HOTLINE OKACHI

2010年3月29日号

【金】

実需の買いが下支えに！？



3/26 12:30現在

◆海外情勢

WGCの投資調査責任者であるウォズニアク氏は、今年の世界金需要について、『昨年末以降、回復の兆しが出始めており、インドや中東諸国を中心に宝飾需要の高まりが期待出来る』、『不安定な景気回復ペースやインフレ圧力、為替リスクなどにより投資需要も増加する』、『中国など各国中銀も外貨準備の分散目的から金購入に動く』との見通しを示した。

◆内部要因

ニューヨーク金市場におけるファンド筋のネット買い玉は16日時点で24万2295枚（1122．2ドル）、前週比9500枚減。取組高は16日時点、23日時点ともに49万枚台。東京市場の取組高は10万枚台。カテゴリー別（18日⇒25日）では、当業者は売り玉3600枚増・買い玉700枚減、非当業者は売り玉2000枚減・買い玉1400枚増。

◆総合分析

インドのボンベイ・ブリオン協会のフンディア会長によると、3月の同国金輸入量は23～28トンと、前年同月の4．8トンから大幅に増加する見通し。これは金需要回復の兆しと見ることが出来そう。3月に入ってから、ニューヨーク金価格は1100ドル前後、東工取金価格は3200円前後でともに底固く推移しているが、今後、実需の買いも下支えの一因として期待される。

このレポートは情報提供を目的としています、売買の判断はお客様ご自身で行って下さい。 CS-0881

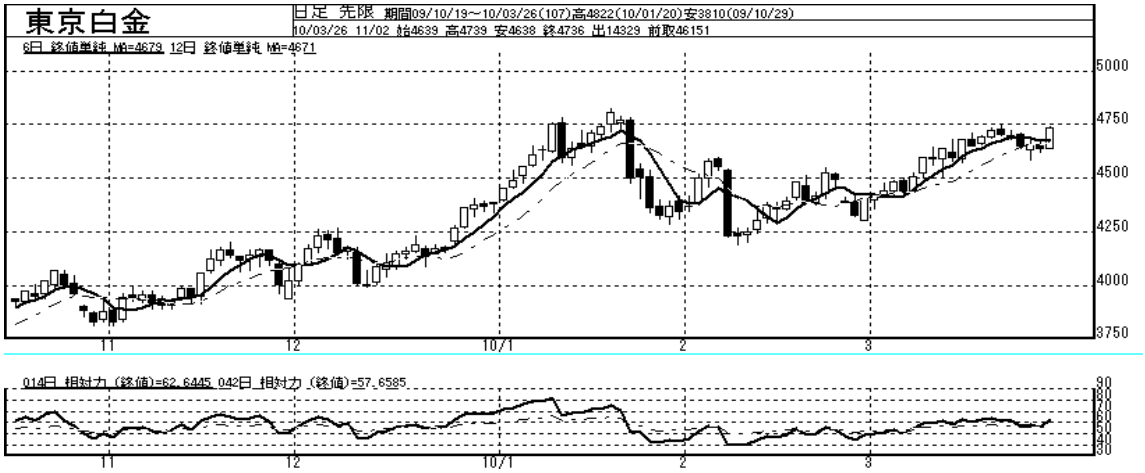
岡地株式会社 ●編集・営業企画部
〒103-0016 東京都中央区日本橋小網町12-5 TEL.(03)3667-7511代

WEEKLY HOTLINE OKACHI

2010年3月29日号

【白金】

ファンダメンタルズの堅調で上昇トレンド



3/26 12:30現在

◆海外情勢

ニューヨーク白金期近は欧米景気回復の期待や中国、インドなど新興国の自動車産業の伸びに伴う触媒需要増加見通しを背景として、長期的な強気方針で臨むファンド資金の流入が強力な下支えとなっている。また、投資需要として白金 ETF(上場投資信託)の実績が増えるとの見方が多く、更に一段高を演じる公算が大きい。米株価や金価格の影響を受けるが、最終的にファンダメンタルズの堅調さがサポートする上昇トレンドに変わりない。中国ばかりでなく、ASEAN や NIES の自動車販売台数が増え続けていることから、欧米日の自動車販売台数が減少しない限り、世界自動車生産・販売台数の増加は間違いないだろう。

◆内部要因

ニューヨーク白金市場におけるファンドポジションはネットロングの状態が長期間にわたり続いている。世界白金需給ひっ迫懸念、投資需要増が示す金融商品への不安から代替投資としての魅力があることが上昇の原動力となっている。東京市場でも非当業者の買い気が強く、先高人気は今後、強まる可能性が高い。外資系ファンドの強気スタンスも変化なく、新規強材料の出現ともなれば、一気に吹き上げておかしくない。

◆総合分析

ニューヨーク白金価格の上昇トレンドが続いており、米株価の上昇に連動して上げ足が強くなる場面を迎えそうだ。世界的な景気回復期待から、自動車だけでなく、幅広い産業向け需要の増加を見込めるだけに、欧米とも最悪期から脱出して回復へ向かうことが確実視されているため、強気有利な相場展開と判断するべきだ。

このレポートは情報提供を目的としています、売買の判断はお客様ご自身で行って下さい。 CS-0881

岡地株式会社 ●編集・営業企画部
〒103-0016 東京都中央区日本橋小網町12-5 TEL.(03)3667-7511代

WEEKLY HOTLINE
OKACHI
2010年3月29日号

【灯油】
人気、実勢ともに強い展開

3/26 12:30現在

◆海外情勢

ニューヨーク原油期近が80ドル台を固めて85ドルへ向かう動きであり、米景気回復への手掛かりが掴めたとの判断から買われている。また、OPEC(石油輸出国機構)が生産目標を据え置き、減産順守率を強くする方針を確認したように、供給面での圧迫もうすれている。当面、米株価の動きを反映した展開が見込まれ、弱材料の後退で、これまで控えていたファンド資金が市場へ還流していることから、上昇基調を維持すると分析するアナリストが多い。原油高に連動する東京灯油も追随するパターンへ。

◆内部要因

ニューヨーク原油市場のファンドポジションはネットロングが増勢を示しているように、米経済の先行き見通しが楽観出来るようになったためであり、米金融当局が低金利で景気を刺激する方針を堅持していることから、米経済指標が改善されている。雇用関係統計が改善されると、更に景気回復への手応えが強くなるはずで、85ドルを超えて90ドルを視野に入れた強気勢力の台頭が見込まれる。東京灯油市場は冬季の暖房需要期が終わろうとしているが、現物事情はアジア向け輸出需要が増えているため、荷もたれとなる恐れがないとして、強気商社の買いで下値不安は解消されるだろう。

◆総合分析

一般投機家、実需ともに強気姿勢を示している。需要期終盤で上値抑制ムードが台頭する恐れがあるものの、下げたところは実需とファンドが買い支える形も想定され、地合は弱くなるまい。玉整理で下げたところは買い場となる可能性が高い。相対力指数も上昇トレンドを示しているように、人気面では強気優勢と判定出来る。海外原油高やシンガポール店頭市場の堅調推移を反映して上値を狙う展開が見込まれる。

このレポートは情報提供を目的としています。売買の判断はお客様ご自身で行って下さい。 CS-0881

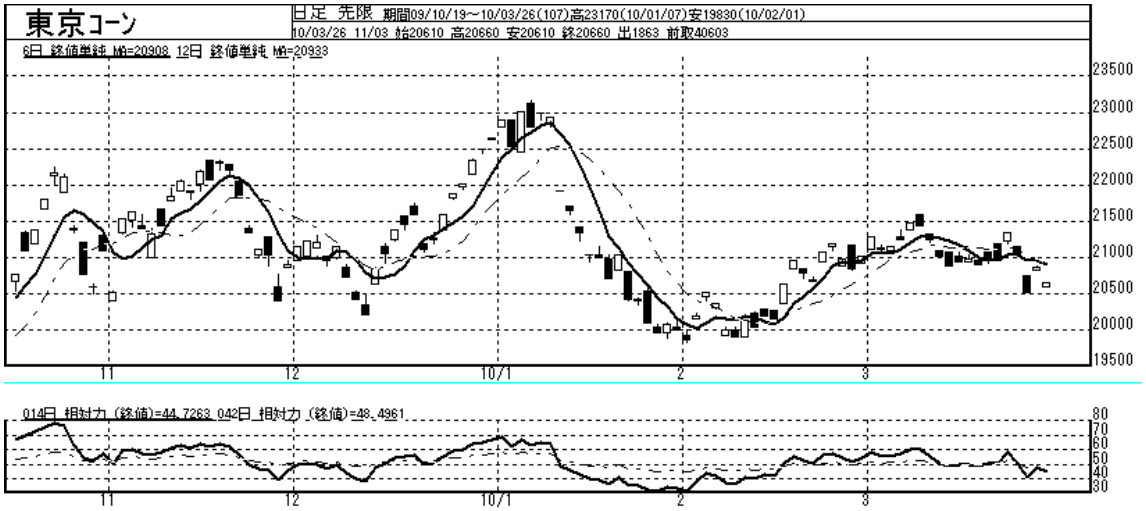
岡地株式会社 ●編集・営業企画部
〒103-0016 東京都中央区日本橋小網町12-5 TEL.(03)3667-7511代

WEEKLY HOTLINE OKACHI

2010年3月29日号

【コーン】

2010年の作付面積は増加か！？



3/26 12:30現在

◆海外市場

シカゴトウモロコシ期近は、2月8日にブッシェル当たり3．4725ドルまで売られたものの、その後は3．50ドル台をキープしている。目先のポイントは、米農務省が31日の発表する2010年の米国トウモロコシの作付意向面積。それに先駆けて、民間調査会社が発表した事前予想はインフォーマが8840万エーカー、アレンデールが9020万エーカー、いずれも前年実績の8650万エーカーを上回った。トウモロコシ増反見通しの背景は、小麦の作付面積が減少して、その分がトウモロコシや大豆にシフトされるとの見方が出ているためで、仮に、今後の天候が順調に推移すれば、2年連続でトウモロコシは豊作となり、需給面では問題がなくなる可能性がある。一方、米中西部はまだ土壌水分が多く、今年も昨年に続いてトウモロコシの作付作業が遅れる恐れが出てきた。トウモロコシの作付作業がどこでヤマ場を越えるか、注目されるところだが、まだ、慌てて天候リスクプレミアムを取りに行く場面ではなさそうだ。

◆国内市場

東京トウモロコシ期先は、円安、海上運賃高などコスト引き上げ要因に後押しされトン当たり2万円台で堅調に推移している。いわば、シカゴ離れした動きになっているが、作付意向面積次第では、再びシカゴ連動型の展開に戻ることも考えられる。目先は為替の動きを睨みながら揉合う公算が強そうだ。

このレポートは情報提供を目的としています、売買の判断はお客様ご自身で行って下さい。 CS-0881

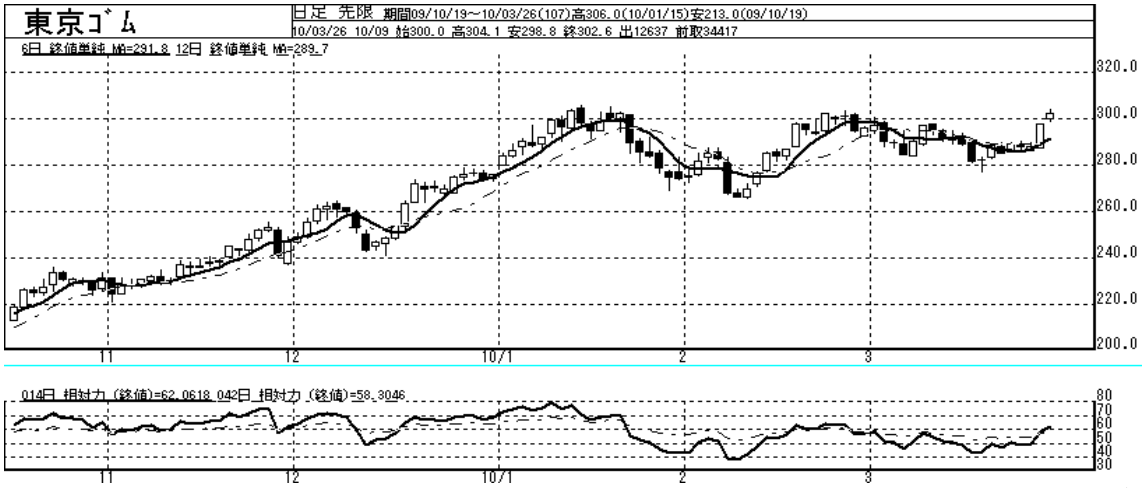
岡地株式会社 ●編集・営業企画部
〒103-0016 東京都中央区日本橋小網町12-5 TEL.(03)3667-7511代

WEEKLY HOTLINE OKACHI

2010年3月29日号

【ゴム】

強弱感対立で逆張り



3/26 12:30現在

◆ファンダメンタルズ

【産地】主要セントラルマーケットにおける集荷量は1日当たり約40トン～50トン台。週末現在、原料は101．11バーツ、オファーは4月積337．0セント（円換算約322．1円）で取引されている。

【在庫】全国生ゴム営業倉庫在庫は2月28日現在、前旬比395トン増の8，222トン。入庫量927トンに対し出庫量は532トン。

【納会】当限3月限は25日に納会を迎え、東京は受渡枚数380枚、納会値段308．5円（前日比4．6高）。中部大阪は受渡枚数100枚、納会値段315．1円（前日比±0円）。

◆展開予想

東京ゴム市場は保ち合いを上放れ300円を上抜けた。週初には、薄商いのなか方向感なく290円付近を小動きしていたが、週半ばに、円安や上海ゴム相場の上昇を背景に上げ、ファンドの積極的な買いを呼び込むと急伸し、サーキットブレーカーを発動させて290円の後半へ。その後、週後半には期近限月を中心に買いが入り、連日のサーキットブレーカーを発動させると、先限もつられて上昇し、一気に300円を超えて上放れた。

罫線上は、300円を超え今年の2月24日に付けた高値303．4円を上回ったことで、次の目標である年初来高値306．0円が目の前に差し迫ってきた。上海ゴム市場は、ここにきて出来高・取組高ともに大きく上昇傾向にあり、活発な取引が反発圧力を下支えているようだ。しかし、ギリシャの債務問題に対し依然解決の方向性が指し示されておらず、さらには、ポルトガル国債の格下げがなされるなど、世界経済を揺るがしかねない材料は未だ根強い。強弱両材料が出揃う中、逆張りで対処したい。

（海外事業部）

このレポートは情報提供を目的としています、売買の判断はお客様ご自身で行って下さい。 CS-0881

岡地株式会社 ●編集・営業企画部
〒103-0016 東京都中央区日本橋小網町12-5 TEL.(03)3667-7511代